

TAKAMAZ

高松機械工業株式会社

証券コード：6155

第 **58** 期

第2四半期 株主通信

2018年4月1日～2018年9月30日

CONTENTS

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| P1 株主の皆様へ | P7 製品のご紹介 |
| P3 セグメント別の概況 | P8 株式の状況 |
| P4 トピックス | P9 アンケートのご報告 |
| P5 第2四半期連結財務諸表 | P10 会社の概要 |

1976



T850

1987



EX-10

1998



XD-5

2018



XWT-10

70th
SINCE 1948



株主の皆様には、平素より格別のご支援、ご鞭撻を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当社は2018年9月30日をもちまして第58期第2四半期連結累計期間（2018年4月1日から2018年9月30日）を終りましたので、当第2四半期の振り返りと今後の見通しについてご説明させていただきます。

ご高覧いただき、当社についてご理解をより一層深めていただければ幸いに存じます。

代表取締役社長 **高松宗一郎**



当第2四半期の連結決算概要と取り組みについて、お聞かせください。



第57期に続いて、第58期第2四半期においても依然として高い需要がある中、ユーザーニーズに応える製品群の提供に努めてきたことで、受注高が100億93百万円（前年同期比8.8%増）、連結売上高が105億32百万円（同21.3%増）、営業利益が8億98百万円（同73.6%増）、経常利益が9億81百万円（同91.1%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益が6億73百万円（同102.0%増）となりました。

事業セグメント別におきましては、工作機械事業では、国内外各地の展示会、プライベートショーにて実機や加工実演を披露したほか、創業70周年を記念したユーザー様・ディーラ様向けキャンペーンを展開することで、需要の確保に努めてきました。

生産面では、生産性の向上をはかりフル生産で対応してきましたが、需要増加によって主要部品の供給が安定せず、計画の一部において生産の進捗遅れが生じました。

IT関連製造装置事業では、安定した需要が継続する中で、売上高の確保と、更なる拡大のための新規開拓に取り組んできました。また、コストダウンや原価抑制に努めて利益率向上をはかってきたことで、増収増益となりました。

自動車部品加工事業では、生産量の確保に努めてきましたが、既存受注部品の計画下振れによって売上が伸び悩み、黒字化に至りませんでした。

Q 今後の見通しについて お聞かせください。

A 当社グループを取り巻く経営環境の先行きは、アメリカの通商政策による影響など、海外経済動向への懸念がありますが、好環境の継続が期待されます。

このような状況の中、工作機械事業では、高水準の受注残を抱えていますので、より多くの生産に対応できるように、主要部品の確実な調達、業務効率化等による生産能力の拡大等をはかっていきます。また、生産に伴う売上計上、原価低減等の推進による利益改善にも注力していきます。

営業面では、今後の動向に留意が必要であるものの、足元には高い需要がありますので、積極的な営業活動やソリューション提案によって、引き続き受注確保に努めます。

IT関連製造装置事業では、需要が継続する見通しであり、適切な生産の実施によって売上・利益を確保していきます。

一方で自動車部品加工事業では、大幅な改善が見込めませんが、既存取引先との関係強化をはかることで、今後の売上増加に向けた受注獲得をはかっていきます。

このような施策の取り組みにより、通期計画の達成に向けてまい進していきます。

Q 生産拡大のために取り組まれていることはなんですか。

A 2018年9月末の受注残高は199億94百万円と、年間売上高に匹敵する非常に高い水準にあります。このような環境下、更なる増産をはかるため、本社工場に隣接する土地・建物を2018年11月に取得しました。この新たな生産拠点では、ロードの生産や配線関係の一部を移行するほか、製品・部品置場として活用することで、本社工場の生産スペースを拡大します。今期目標達成とともに、今後の業績向上に貢献する見通しです。

Q 株主の皆様へ メッセージをお願いします。

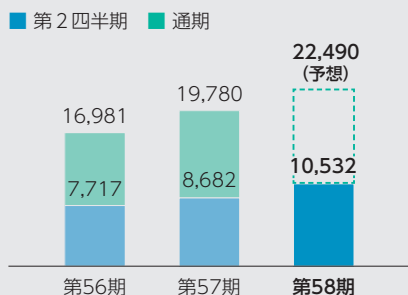
A 当社では、高い利益を上げて株主の皆様へ還元していきたいと考えています。

第58期は、1株当たり8円の間配当を実施し、期末配当は1株当たり14円を計画しています。また、下期に自己株式の取得を行うとともに、2019年3月末の株主様には創業70周年記念優待としてオリジナルQUOカードを贈呈します。

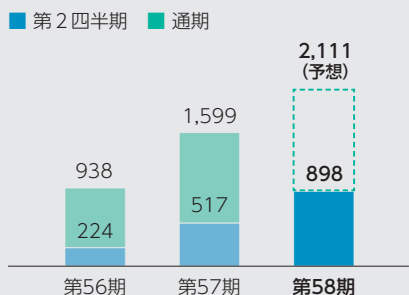
株主の皆様におかれましては、ぜひ継続保有していただくとともに、変わらぬご支援ご指導を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

連結財務ハイライト

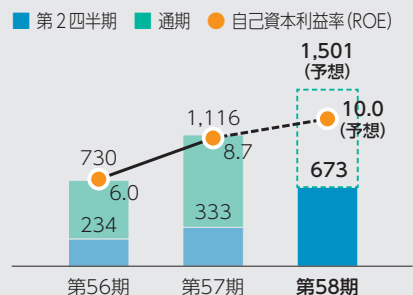
売上高



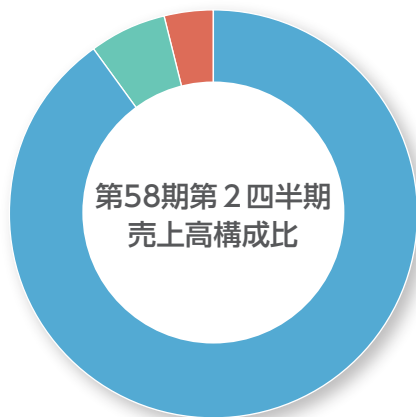
営業利益



親会社株主に帰属する 四半期（当期）純利益



セグメント別の概況



- 工作機械事業
- IT関連製造装置事業
- 自動車部品加工事業

工作機械事業

営業面では、国内外各地の展示会やプライベートショーにて、従来機や新機種の紹介のほか、IoT製品や自動化技術等をPRし、拡販活動に努めてきました。なお上半期では新製品3機種を発表しました。

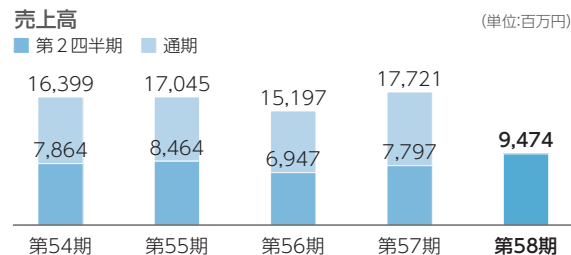
受注高100億93百万円の内訳は、内需が68億81百万円(前年同期比14.9%増)、外需が32億11百万円(同2.3%減)でした。



売上高 **9,474**百万円
構成比 **90.0%**

高い国内需要に比べ、欧米向けが減少しました。

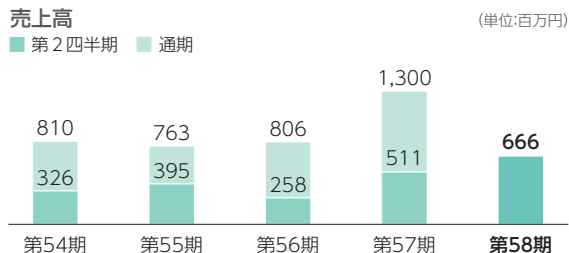
地域別の売上高は、内需が好調を維持し、60億89百万円(同9.1%増)、外需は特に中国向けが大きく伸長し、33億84百万円(同52.8%増)でした。外需比率は35.7%(前年同期は28.4%)となりました。



IT関連製造装置事業

売上高 **666**百万円
構成比 **6.3%**

既存取引先から安定した需要がある中で、前期末に完了した工場の増築によって生産能力の増強、生産効率の向上がはかれ、売上高が増加しました。また、積極的な営業活動によって、需要情報の入手や新規開拓に努めてきました。

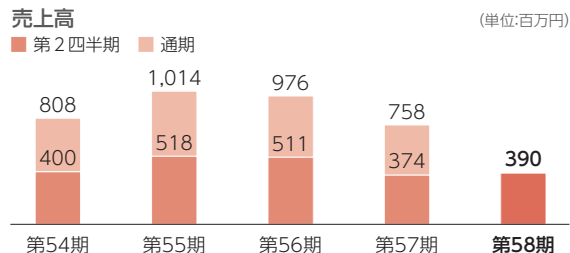


自動車部品加工事業

売上高 **390**百万円
構成比 **3.7%**

当社単体では、適切な進捗管理による生産実施と既存取引先との情報共有による受注拡大に努めてきました。

タイの連結子会社では、生産体制の強化と引合案件の受注活動に取り組んできました。



展示会出展

■ IMTS2018

9月10日～15日の6日間、世界三大工作機械見本市のひとつとされるIMTS（シカゴ国際工作機械見本市）に出展しました。IMTS過去最高となる約13万人の来場があり、市場の好調さが顕著に表れました。

当社ブースも多くの人で賑わい、営業員による熱心なアピールの結果、当社製品に強い興味を持っていただくことができました。

また、10月にはアメリカ販売子会社TMUの事務所移転・拡大を行いました。今後、ますます北米地域での販路拡大に努めていきます。



■ JIMTOF2018

11月1日～6日の6日間、東京ビッグサイトにて、JIMTOFが開催されました。

JIMTOFは2年に1度開催されている、世界から最先端の工作機械とその関連機器が集結するアジア最大級の展示会です。今回も、世界各国から約15万人もの来場がありました。

当社ブースでは新製品を含めた7機種を展示しました。その中でも、「XYT-51」においては当社営業員による加工実演を行い、工程集約を実現できる当製品の強みを、お客様の目の前で見せしました。



個人投資家様向け会社説明会

8月に個人投資家様を対象とした会社説明会を行いました。20日は金沢、30日は東京で行い、多数の個人投資家の皆様にご参加いただきました。

社長交代後、初めて個人投資家の皆様とお会いする機会となり、当社の強みや今後の成長戦略などを直接お話いたしました。ご来場の方々から多数のご質問を頂戴するなど、当社への理解を深めていただくことができました。

今後も積極的なIR活動を行い、株主・投資家の皆様とのコミュニケーションをはかっていきます。



プライベートショー開催

当社は販路拡大・販売強化のため、国内・外の各拠点でプライベートショーを適時行っています。その中から、広島での開催と、創業70周年記念プライベートショーについてご紹介します。国内では約3年ぶりの開催となりました。

■ 広島プライベートショー

6月7日～8日の2日間、当社として初となる広島でのプライベートショーを開催し、約250名のお客様にご来場いただきました。

当社社長が「この2日間を広島の地への開拓のきっかけにしたい」と力強く意気込みを語り開幕した本プライベートショーは、普段なかなか実機を見ていただくことができないお客様にも、実際にご覧いただき、理解を深めていただける大変貴重な機会となりました。



■ 創業70周年記念プライベートショー

9月20日～21日の2日間、石川県産業展示館4号館にて、「感謝・感動・共栄」をテーマに創業70周年記念プライベートショーを開催しました。

今回は過去最大規模での開催であり、全国各地から、延べ1,000名ものお客様、ディーラ様、協力企業様にご来場いただき、会場は大いに盛り上がりしました。

会場では、新製品を含めた14機種と、協賛メーカー様25社の製品展示を行いました。また、IoT製品を紹介するブース、技術セミナーのほか、加工技術の相談コーナーなども設け、お客様のお困り事やご要望を直接お伺いし、ご希望に沿った当社の製品と加工技術のご提案を行いました。

本プライベートショーでは、日頃より支えてくださっている皆様に、創業70周年を迎えられた感謝の気持ちをお伝えすることができ、大変有意義な2日間となりました。

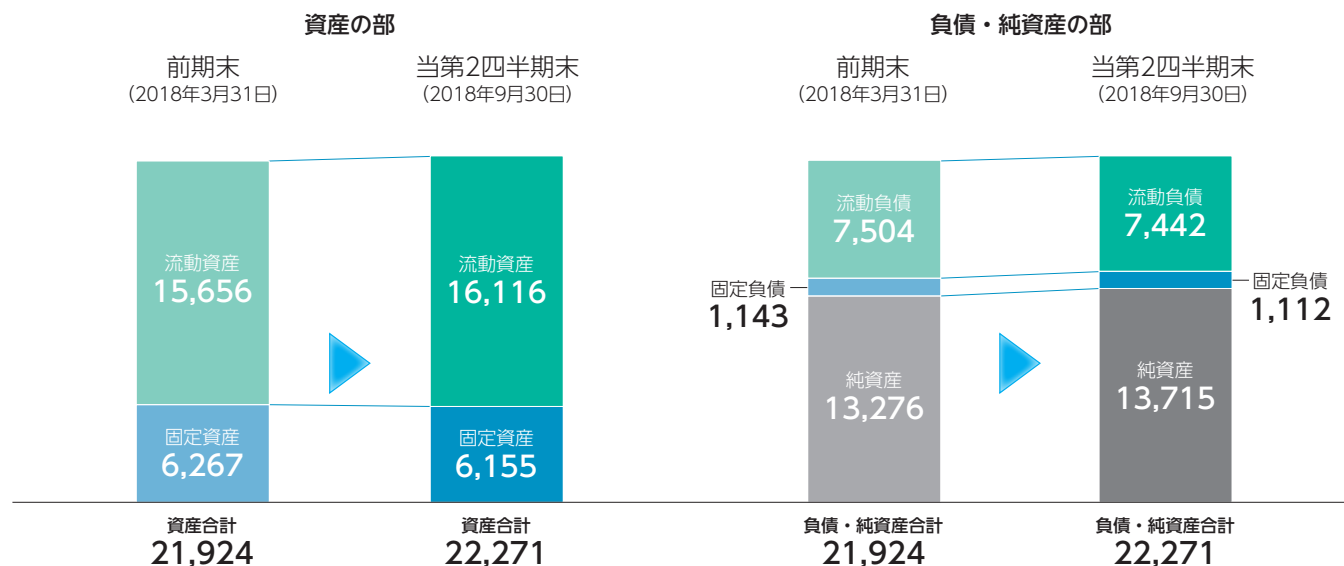


両プライベートショーで得た貴重なご縁を大切に、今後もより一層当社製品の魅力を広めていきます。

第2四半期連結財務諸表

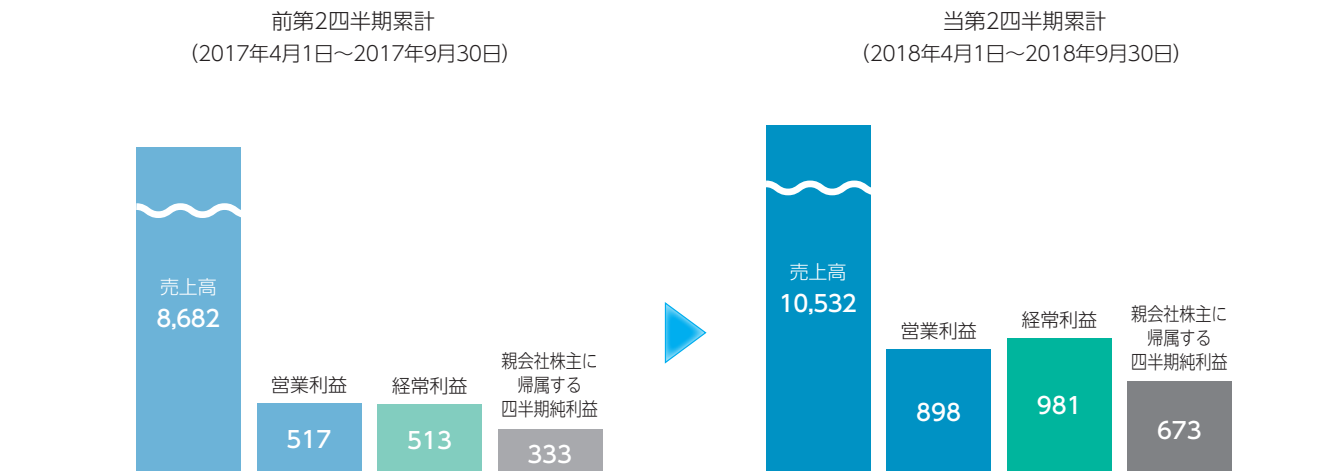
四半期連結貸借対照表の概要

(単位:百万円)



四半期連結損益計算書の概要

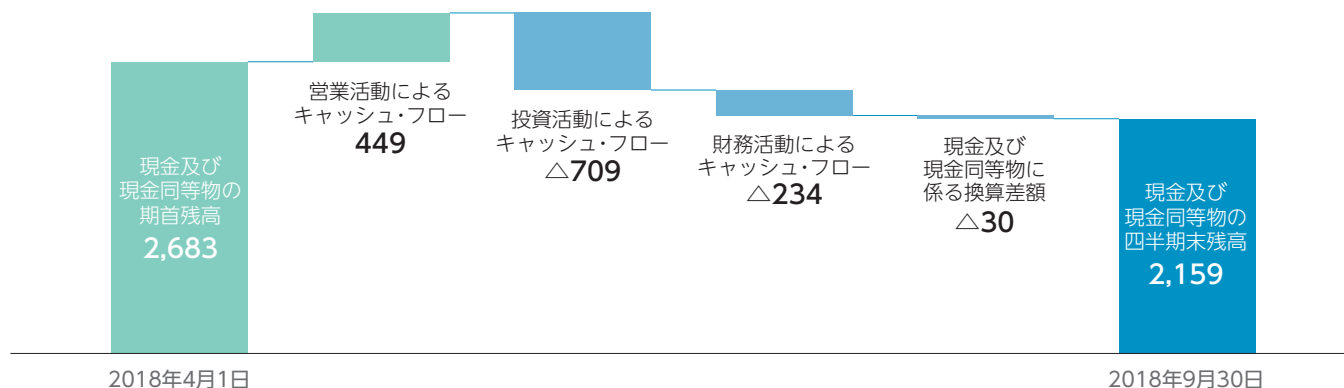
(単位:百万円)



四半期連結キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位:百万円)

当第2四半期累計
(2018年4月1日～2018年9月30日)



財務のポイント

■ 資産

流動資産の主な変動要因として、受取手形及び売掛金が8億1百万円、流動資産のその他（前渡金等）が1億29百万円減少しましたが、たな卸資産が9億2百万円、電子記録債権が4億13百万円、現金及び預金が75百万円増加しました。

固定資産の主な変動要因として、有形固定資産のその他が52百万円、建物及び構築物が38百万円減少しました。

■ 負債

流動負債の主な変動要因として、電子記録債務が3億7百万円増加しましたが、流動負債のその他（未払金等）が2億36百万円、未払法人税等が82百万円、支払手形及び買掛金が50百万円減少しました。

固定負債の主な変動要因として、長期借入金が49百万円減少しました。

■ 純資産

主な変動要因として、利益剰余金が5億32百万円増加しました。
なお、自己資本比率は61.5%であります。

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー

4億49百万円の資金流入（前年同期は4億7百万円の資金流入）でした。

主な流入要因は、売上債権の減少、税金等調整前四半期純利益の計上等であり、主な流出要因は、たな卸資産の増加、法人税等の支払い等であります。

■ 投資活動によるキャッシュ・フロー

7億9百万円の資金流出（前年同期は70百万円の資金流出）でした。

主な流出要因は、定期預金の預入による支出、有形固定資産の取得による支出等であります。

■ 財務活動によるキャッシュ・フロー

2億34百万円の資金流出（前年同期は4億4百万円の資金流出）でした。

主な流出要因は、配当金の支払い、長期借入金の返済による支出等であります。

詳細な財務情報は、当社IRサイトよりご覧いただけます。

<https://www.takamaz.co.jp/ir/>

NEW

XT-6/XT-6M

当社の主力機種がさらに進化

「XT-6」は、当社を代表する機種「XL-100」の次世代機です。従来機はベーシックな構造でありながら、コンパクト・お求めやすい価格で多くのお客様にご愛顧いただけてきました。「XT-6」は操作性と高速性をさらにアップさせつつも、コンパクトなボディを維持しています。また、回転工具を搭載した「XT-6M」もあわせてラインナップしました。

◆回転工具

刃物自体が回転する機構を設けた工具のこと。素材を回転させる通常の加工に比べ、刃物自体が回転することにより、加工の幅が広がる。

**NEW**

XWT-10

大型部品も加工可能、XWシリーズ充実化

当社の2スピンドル機では最大の外径加工域を誇る「XWT-10」を開発しました。加工できるワークサイズを拡大しつつも、従来からの特徴である安定した加工精度はそのまま維持しています。また、新たに10角タレット2基を標準搭載し、様々な工具を取り付け可能としたことで、従来では対応できなかった幅広い加工物に対応できるようになりました。

◆2スピンドル機

2つの主軸を備える機種のこと。2工程を同時に加工することが可能なため、生産性向上に寄与。

◆タレット

刃物を取りつける回転式の装置のこと。10角タレット・・・10か所に刃物が取り付け可能。



TAKAMAZ IoTのご紹介

当社はIoT製品の開発も行っていますので、その一部をご紹介します。

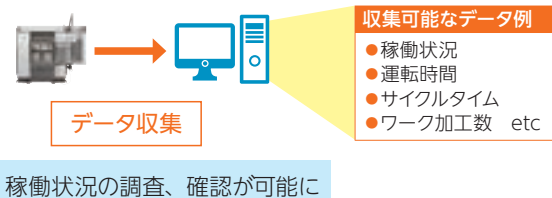
IoT集中操作システム

機械の稼働状況をタブレットでリアルタイムに確認できる製品です。



IoTデータ収集ツール

機械内部のデータを取得し、Excel等によって自由に分析することができる製品です。

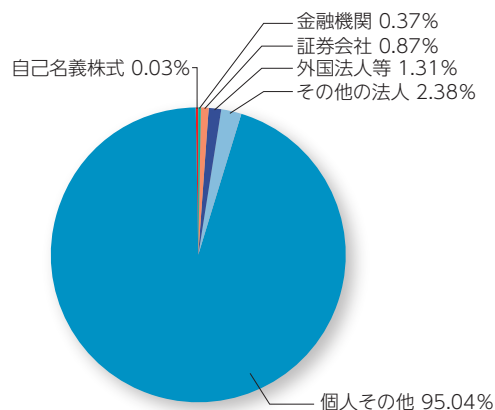


株式の状況 (2018年9月30日現在)

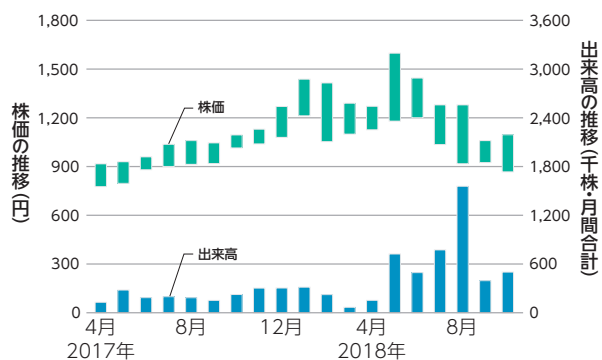
株式の状況

発行可能株式総数	30,000,000 株
発行済株式総数	11,020,000 株
1単元の株式数	100 株
株主数	2,985 名

所有者別分布状況



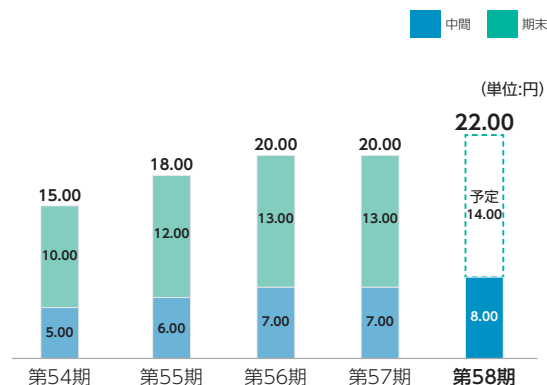
株価インフォメーション



大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
高松機械工業取引先持株会	842	7.64
株式会社タカマツ	810	7.35
北国総合リース株式会社	433	3.93
株式会社北国銀行	408	3.70
日本生命保険相互会社	384	3.48
明治安田生命保険相互会社	360	3.27
株式会社朝日電機製作所	355	3.22
三井住友海上火災保険株式会社	333	3.02
高松明毅	330	3.00
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND	323	2.93

1株当たり配当額

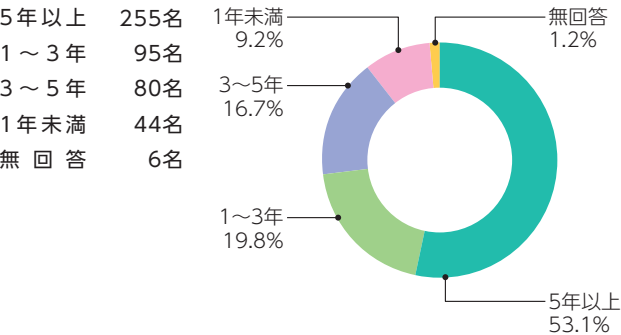


アンケートのご報告

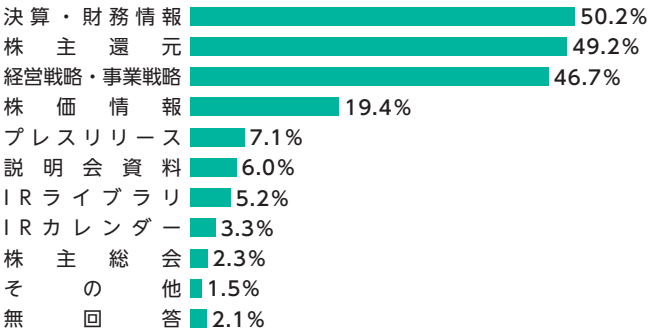
単元株主様の第57期株主通信に同封しましたアンケートにおきましては、たくさんのご回答をいただき誠にありがとうございました。
アンケートの集計が完了しましたので、その一部ですがご報告させていただきます。

単元株主数	1,727名
アンケート回答数	480名
アンケート返信率	27.8%

●当社株式の保有期間を教えてください。



●企業のIRサイト(当社・他社問わず)で特に興味のある項目はなんですか？(複数回答可)



いただいたご質問にお答えします

Q 高松機械の製品が選ばれる理由は何ですか？

A 当社では手作業工程を自動化させるため、旋盤に自社開発の周辺装置を取り付けたものや、数台を連結したお客様仕様の生産ラインを提供しています。他社にはあまりない、自社で開発された周辺装置を用いることで、より細かいニーズに対応できることから、当社の生産ラインはお客様から選ばれています。



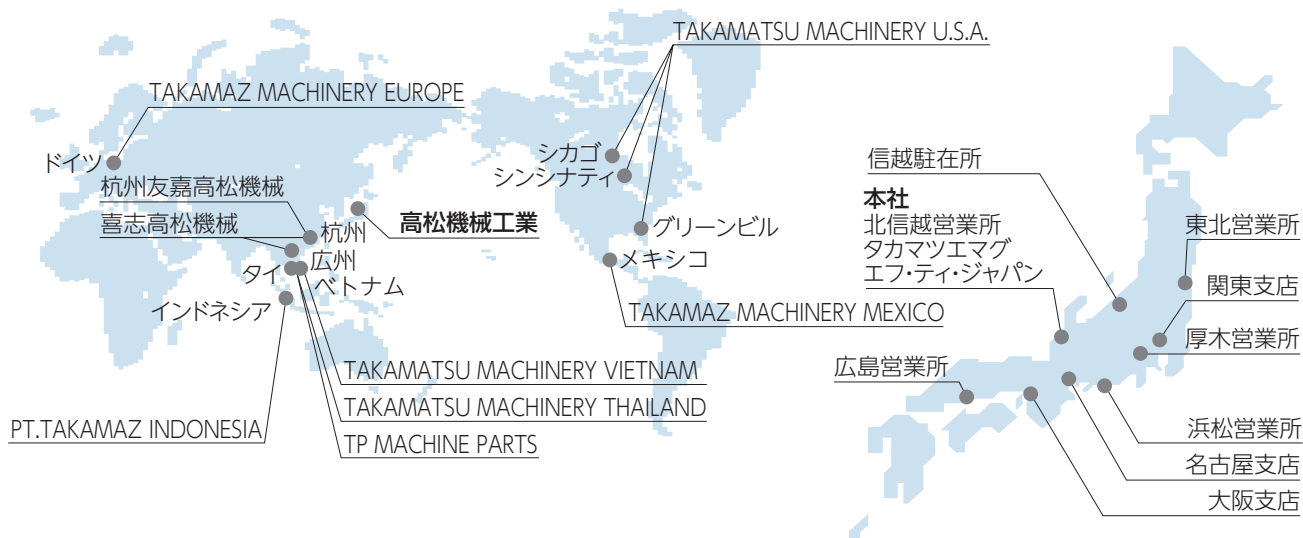
会社概要

商号	高松機械工業株式会社
英文商号	TAKAMATSU MACHINERY CO., LTD.
設立	1961年7月
資本金	18億3,539万円
本社	石川県白山市旭丘1丁目8番地
従業員数	528名
事業内容	・CNC旋盤等の製造、販売およびサービス・メンテナンス ・部品、コレットチャック等の製造、販売 ・IT関連製造装置の製造 ・自動車部品の加工
ホームページアドレス	https://www.takamaz.co.jp

役員

代表取締役会長	高松 喜与志
代表取締役社長	高松 宗一郎
専務取締役	溝口 清
常務取締役	徳野 穰
常務取締役	磯部 稔
取締役	四十万 尚
取締役	前田 充夫
取締役	中西 与平
取締役	村田 俊哉
取締役(社外)	中西 祐一
取締役(社外)	石原 多賀子
常勤監査役	池上 佳信
監査役(社外)	鍛冶 敏弘
監査役(社外)	杖村 修司

ネットワークとサービス体制





創業70周年記念 株主優待のご案内

当社は、2018年9月をもって創業70周年を迎えました。つきましては、株主の皆様の日頃からのご支援に感謝の意を表すため、記念優待を実施します。

- 対象 ▶ 2019年3月末時点で100株以上所有の株主様
優待内容 ▶ オリジナルQUOカード1,000円分
発送時期 ▶ 2019年6月上旬予定



株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 6月中
株主確定基準日 (1) 定時株主総会 3月31日
(2) 期末配当金 3月31日
(3) 中間配当金 9月30日
(4) その他必要ある時 あらかじめ公告して定めた日
株主名簿管理人 および 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
特別口座の口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人事務取扱場所 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) ☎0120-782-031
(インターネットホームページURL) <https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

公告の方法 当社ホームページに掲載
<https://www.takamaz.co.jp>
上場証券取引所 東京証券取引所市場第二部
お問い合わせ先 管理本部 企画経理部
TEL 076-274-1410〈直通〉
FAX 076-274-1418

【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会については、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、左記の電話照会先にご連絡ください。

【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます)を開設しております。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、左記の電話照会先をお願いいたします。

TAKAMAZ
高松機械工業株式会社

70th
SINCE 1948

ホームページ <https://www.takamaz.co.jp>



環境に配慮したFSC®認証紙と植物油インキを使用しています。



UD FONT

見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。